

柔軟な姿勢で制作に向かいたいと考えている。

このようにいまだに未熟で揺れ動いているが、内面の充実を図るよう努力しているところだ。

横道にそれるが、絵画は作品という媒体を介して意思を表現する芸術であろう。絵画の鑑賞は生の作品が展示された美術館などで行われる。それに反し音楽はわざわざコンサートホールに出かけなくても鑑賞する事ができる。

CDとかスマホとかコピーになじむ芸術として、アトリエ等で気軽に

楽しんでいる方も多いのではないだろうか。制作の傍らクラシックであれジャズであれ音楽を楽しむという事は、付随的な存在かも知れないが、私にとって潤滑油になっていることは間違いない。邪魔にならない友人関係である。

本来、絵描きは制作のみを考慮し邁進すればいいと思うのだが、制作後の作品は必然的に残る。

一過性の芸術を扱っている人からは羨ましがられるが、過去の自分と向き合うことはなかなか容易でない。描きためた作品の中には廃棄処

分したくなるようなものも含まれているが、我慢して見てみると、これからの方向性やヒントを示してくれる場合もあるから不思議である。

70周年記念示現会展出品作品
「吊るした布と花梨」

▲ (図3) 背景にシルバーを塗る

つい最近まで私のアトリエは、娘や弟の学生時代の作品もあり山積み状態になっていた。ここ数年ほど悩んだが、意を決して収蔵庫を建築した。そして作品は引っ越しできアトリエの制作スペースも確保できた。全く自己満足ではあるが、今の時点では宝物を集めたような豊かな気持ちになっている。

後書きになります。この度、原稿依頼をうけ、ペンを取りました。テーマに反し、雑感に終始してしまい、改めて文章能力のなさを思い知らされたところです。
予定どおりの乱文となりました。今後もお批評、ご指導などいただきながら、示現会員として一層の精進を重ねる覚悟です。